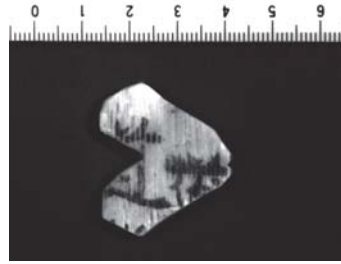


## 出土遺物の紹介

今回の調査では、川跡から飛鳥時代から奈良時代（およそ1300年～1200年前）にかけて、多数の遺物が出土しました。ここでは特徴的な遺物を取り上げます。

**琴柱** 琴柱とは、琴の胴の上に立てて弦を支え、位置を移動することによって音の高低を調整するための用具です。川跡から3点出土しています。特に注目されるのは、その内の1点で、文字とみられる墨痕が鮮明にみられます。もともとは木筒として使用した木材を再利用して琴柱にしたと考えられ、2行3文字が確認できます。切断によって文字を正確に読み取ることは出来ませんが、「し（しんによう）」とみられる部首と「首」とも読める筆跡から1字は「道」ではないかと推測されます。琴柱としての大きさは、高さ2.7cm、幅3.2cmとなります。



琴柱転用木筒の赤外線写真

古代において琴は、神に音楽を供える際に用いる楽器とされ、祭祀の道具として用いられていました。さらに、琴から転じて琴柱も特別視され、琴柱単体でも祭祀の道具として用いられたと考えられています。上砥山遺跡出土の品は、琴本体が見つからないことから、琴柱自体が祭祀用の道具ではないかと考えられます。

**木筒** 長さ14.2cm以上、幅2.2cmの付札木筒も1点出土しました。「大□□大□」の5文字が確認できますが、墨痕がうすいため□の部分は判読できませんでした。

**墨書土器** 「太」「太(大?)□」「太□」「富豊」「井」「長」「小足」などの文字が書かれています。とくに「太」と1文字書かれたものが多く出土しています。これらの墨書土器はいずれも奈良時代のもので、須恵器の坏や蓋などの食器類に墨書されています。

**硯** 須恵器の中空円面硯という特殊な硯が1点出土したほか、食器として用いられる須恵器を硯として代用した転用硯が複数出土しました。

中空円面硯とは、中が空洞になった本体に筒状の把手が付いた硯で、7世紀前半から8世紀前半にかけてみられます。把手がついていることから、片手に硯を持ちながら文字を書く際に用いられた道具であると考えられています。上砥山遺跡出土の品は、把手部分と硯面の痕跡が残っていることから中空円面硯だと判断できます。

**土馬** 土馬とは、古墳時代から古代にかけて作られた馬をかたどった土製品で、その多くが川や溝、井戸といった水にかかわる遺構から出土することから、水にまつわる祭祀に用いられたものであると考えられています。

4点出土しています。うち3点は土師質で、1点は須恵質となります。その中で最も残りの良いものは、胴部には線刻や粘土の貼り付けによって鞍や装飾を表現しています。残念ながら頭部と脚3本は欠損しています。

## まとめ

今回の発掘調査によって、不明な点が多い上砥山遺跡に新たな資料が加わりました。川跡より飛鳥時代から奈良時代にかけての大量の土器や木製品が出土し、それらの中には木筒や墨書土器など、文字が書かれたものや、文字を書くための道具である硯が見つかりました。また、祭祀具とみられる琴柱や土馬も複数点見つかりました。これらの出土遺物から、上砥山遺跡とその周辺地域には、文字を日常的に使用する階層の人たちの存在が確認されるとともに、これらの人たちは、官衙などの公的施設、または地域の有力者層が関係していることが考えられます。そして、これらの人たちが川で祭祀を行っていたものと考えられます。

## レトロ・レトロの展覧会 2020 特別陳列2 上砥山遺跡

# 川のほとりにて～甦る古代の文字と祭祀～

私たちは文化財をおして  
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



## はじめに

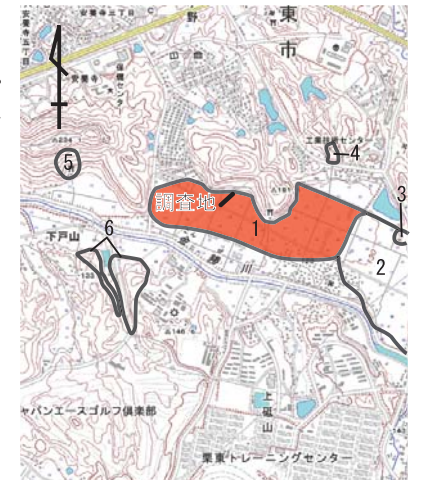
栗東市中央部に位置する上砥山遺跡は、北側の低丘陵と南側に流れる金勝川に挟まれた狭小な平野部に立地する遺跡です。これまでの発掘調査では奈良時代後半から平安時代にかけての建物跡や井戸が検出されています。

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県教育委員会の依頼を受け、国土交通省近畿地方整備局滋賀国道事務所が工事を実施している国道1号栗東水口道路建設に伴う発掘調査を平成30年11月から令和元年12月まで実施しました。

今回の調査地は上砥山遺跡の北西部の山裾に位置しており、飛鳥時代から奈良時代にかけての川跡や掘立柱建物跡が見つかりました。

とくに川跡からは土器や木製品が多量に出土しています。これらの遺物の中には、木筒を転用した琴柱や墨書土器といった文字資料や文字を書くための道具である硯のほか、土馬などの祭祀にかかわるものも含まれています。

今回の展示では、これらの文字資料や祭祀遺物を中心に紹介していきます。



1. 上砥山遺跡（奈良～室町時代、集落）
2. 中村遺跡（古墳時代～中世、集落）
3. 樋ノ口遺跡（白鳳～奈良時代、窠跡）
4. 上砥山古墳群（古墳時代後期、古墳群）
5. 五百井戸神社古墳群（古墳時代後期、古墳）
6. 山田遺跡（白鳳～奈良時代、窠跡）



みつかった川跡（手前の窪んだ部分）

上砥山遺跡と周辺の遺跡



木筒を転用した琴柱



中空円面硯 上面の墨を擦る部分と把手は欠損しています



転用硯 須恵器蓋の内面を硯として使用しています



土馬1 頭部と脚3本は欠損しています



墨書土器 須恵器坏の側面や底部に「太」と墨書されています



付札木筒赤外線写真  
上から「大□大□」の5文字が確認できます



奈良時代中期の掘立柱建物跡  
東西2間(5m)×南北3間(7m)の規模です



土馬2 須恵質のもので、胴体のみが出土しました



まぐわ馬鍬 牛馬にひかせて耕す道具



杵 3本まとまって出土しました  
いずれも未使用品です